

久留米市地場企業景況調査レポート(平成25年7月～9月期調査分)

<調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

<調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

<調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

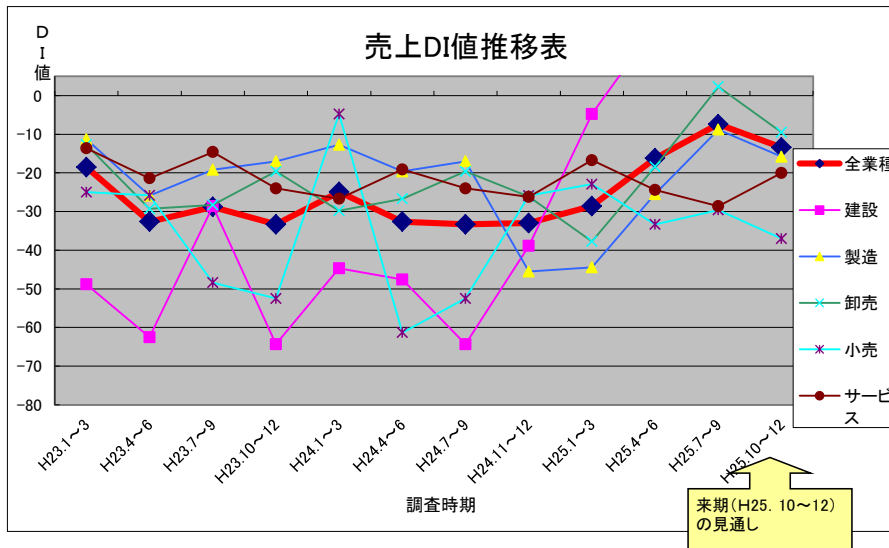
<DI値とは>

DI(ディーアイ。Diffusion Index:景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

<平成25年4月～6月期調査分回収結果>

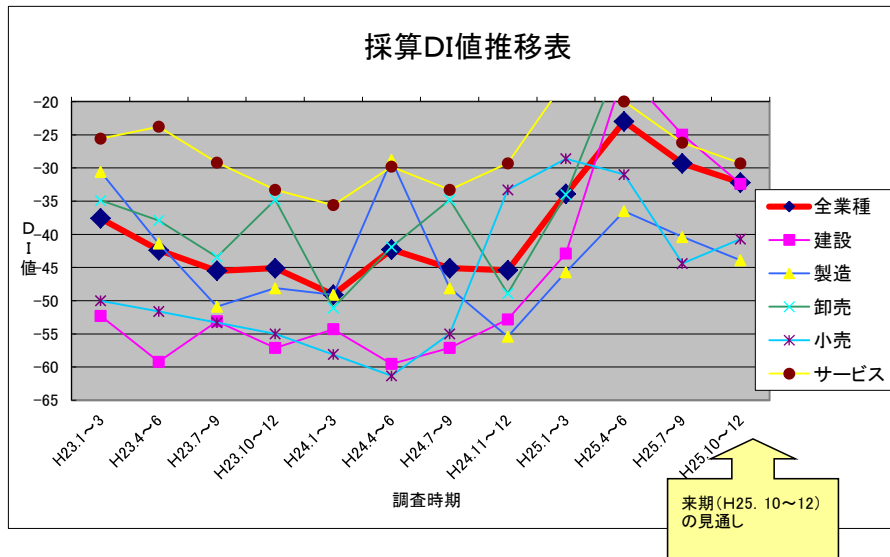
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	207	34.5%
建設業	120	36	30.0%
製造業	120	59	49.2%
卸売業	120	43	35.8%
小売業	120	27	22.5%
サービス業	120	42	35.0%



今期(H25. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「売上面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は63社(前期比7社減)、「減少した」と回答した企業は78社(前期比12社減)、「横ばいである」と答えた企業は63社(前期比1社減)であった。DI値を見ると、▲7. 4となり、前期比で8. 8P好転した。

業種別に見ると、建設業27. 8(前期比9. 9P好転)、製造業▲8. 8(前期比16. 7P好転)、卸売業2. 3(前期比20. 7P好転)、小売業▲29. 6(前期比3. 7P好転)、サービス業▲28. 6(前期比4. 2P悪化)となった。

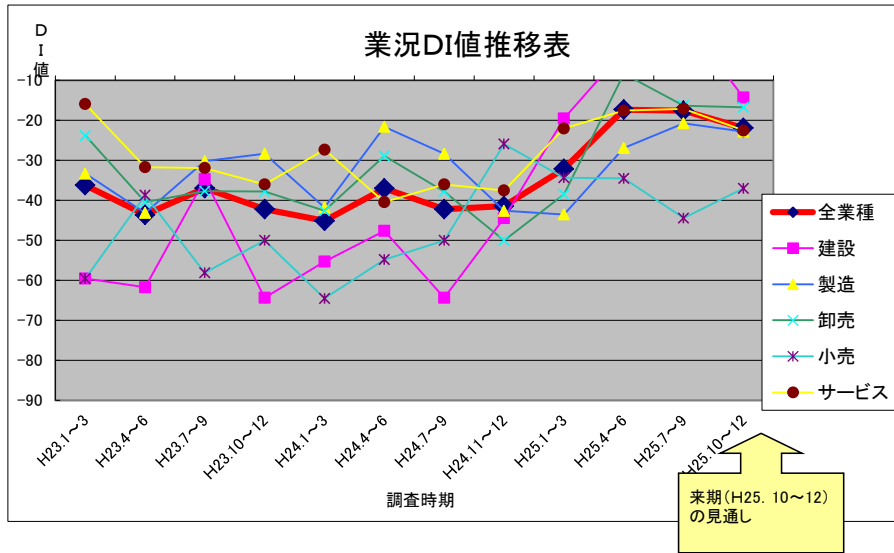
来期(H25. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲13. 4と6. 0P悪化する見込み。



今期(H25. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「採算面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は27社(前期比7社減)、「悪化した」と回答した企業は87社(前期比5社減)、「横ばいである」と答えた企業は91社(前期比2社減)であった。DI値を見ると、▲29. 3となり、前期比で6. 3P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲25. 0(前期比9. 6P悪化)、製造業▲40. 4(前期比3. 9P悪化)、卸売業▲11. 6(前期比0. 6P好転)、小売業▲44. 4(前期比13. 4P悪化)、サービス業▲26. 2(前期比6. 2P悪化)となった。

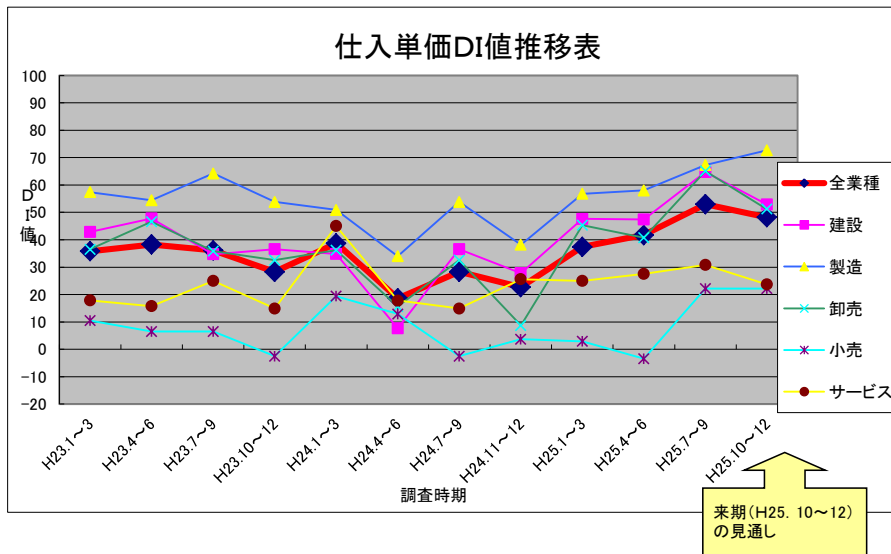
来期(H25. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲32. 2と2. 9P悪化する見込み。



今期(H25. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は37社(前期比3社増)、「悪化した」と回答した企業は73社(前期比3社減)、「横ばいである」と答えた企業は95社(前期比9社減)であった。DI値を見ると、▲17.6となり、前期比で0.3P悪化した。

業種別に見ると、建設業5.6(前期比8.2P好転)、製造業▲20.7(前期比6.2P好転)、卸売業▲16.3(前期比8.0P悪化)、小売業▲44.4(前期比9.9P悪化)、サービス業▲17.1(前期比0.4P好転)となった。

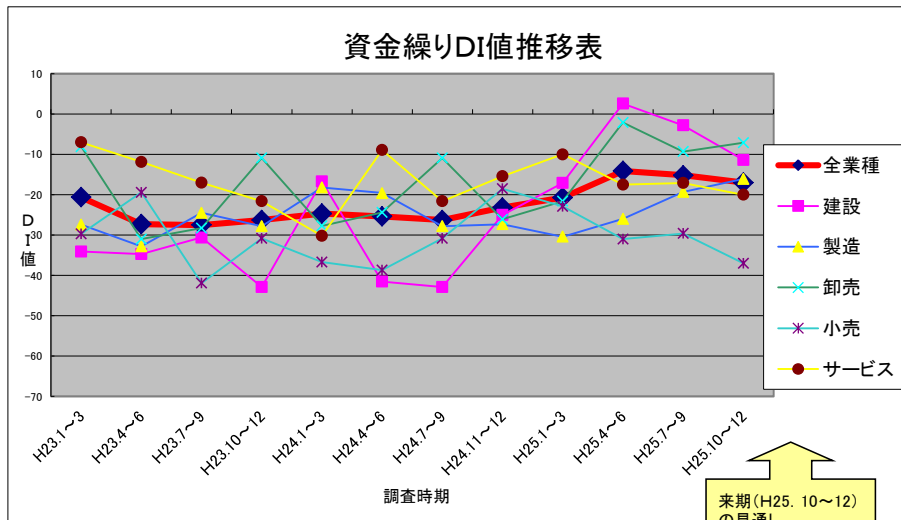
来期(H25. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲21.9と4.3P悪化する見込み。



今期(H25. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は115社(前期比15社増)、「低下した」と回答した企業は10社(前期比4社減)、「横ばいである」と答えた企業は73社(前期比19社減)であった。DI値を見ると、53.0となり、前期比で11.3P上昇した。

業種別に見ると、建設業64.7(前期比17.3P上昇)、製造業67.3(前期比9.3P上昇)、卸売業65.1(前期比24.3P上昇)、小売業22.2(前期比5.4P上昇)、サービス業30.8(前期比3.3P上昇)となった。

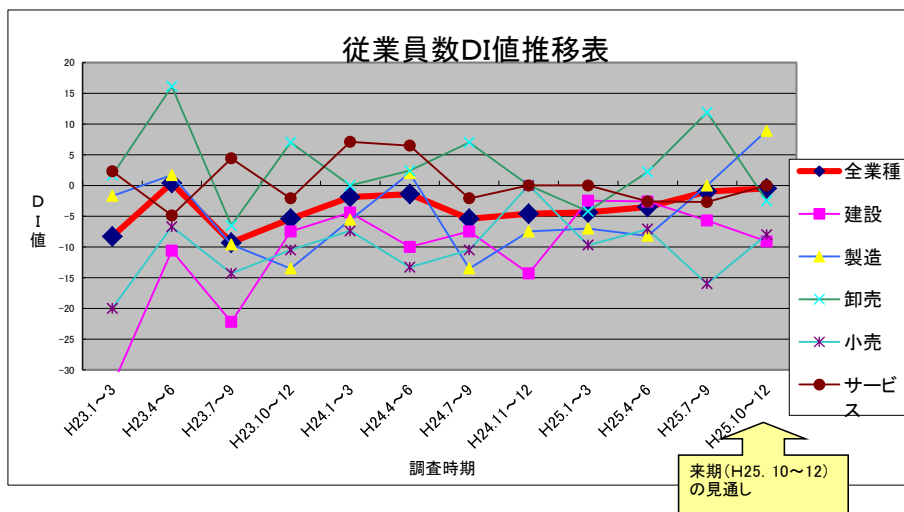
来期(H25. 10~12)の見通しでは全業種DI値は48.2と4.8P低下する見込み。



今期(H25. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は11社(前期比6社減)、「悪化した」と回答した企業は42社(前期比4社減)、「横ばいである」と答えた企業は151社(前期比9社増)であった。DI値を見ると▲15. 2となり、前期比で1. 1P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲2. 8(前期比5. 4P悪化)、製造業▲19. 3(前期比6. 7P好転)、卸売業▲9. 3(前期比7. 2P悪化)、小売業▲29. 6(前期比1. 4P好転)、サービス業▲17. 1(前期比0. 4P好転)となった。

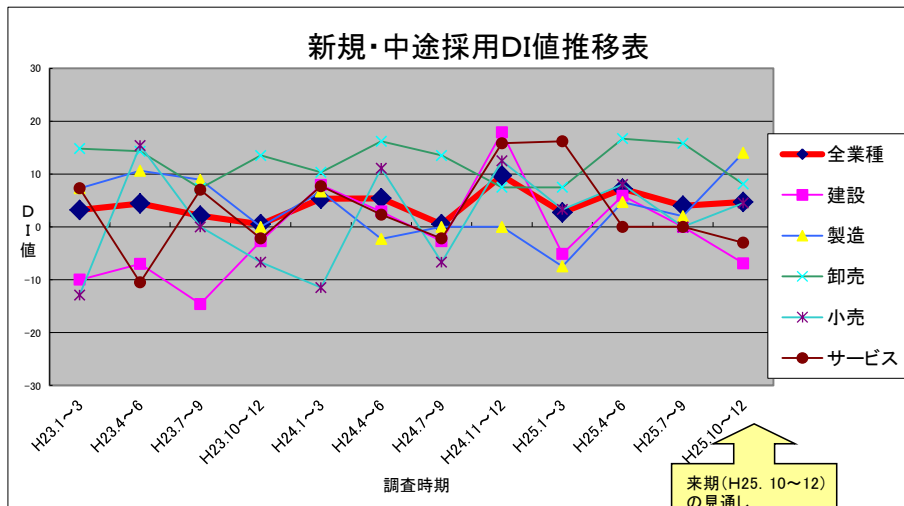
来期(H25. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲17. 0と1. 8P悪化する見込み。



今期(H25. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は36社、「減少した」と回答した企業は38社、「横ばいである」と答えた企業は123社であった。DI値は▲1. 0となった。

業種別に見ると、建設業▲5. 7、製造業0. 0、卸売業11. 9、小売業▲16. 0、サービス業▲2. 7となった。

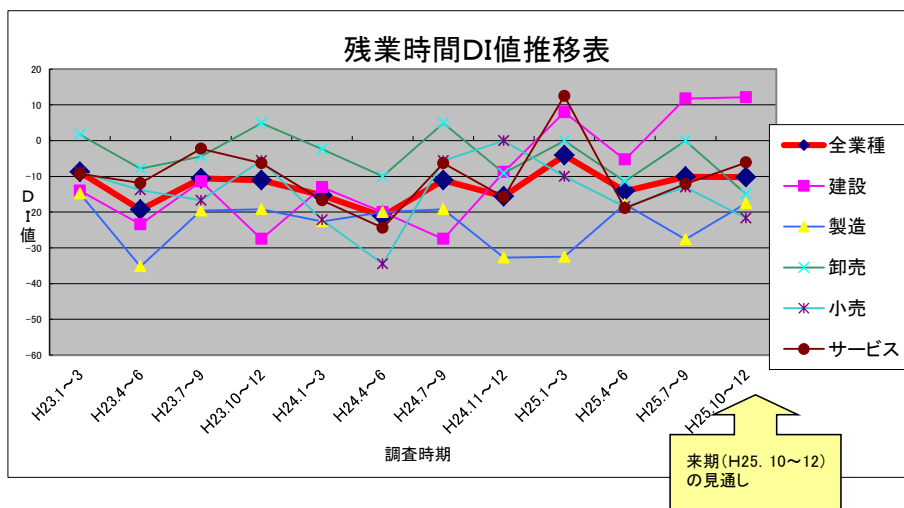
来期(H25. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲1. 0となる見込み。業種別に見ると、建設業▲9. 1、製造業8. 9、卸売業▲2. 5、小売業▲8. 0、サービス業0. 0となる見込み。



今期(H25. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は25社、「減少した」と回答した企業は18社、「横ばいである」と答えた企業は131社であった。DI値は4.0となった。

業種別に見ると、建設業0.0、製造業2.0、卸売業15.8、小売業0.0、サービス業0.0となった。

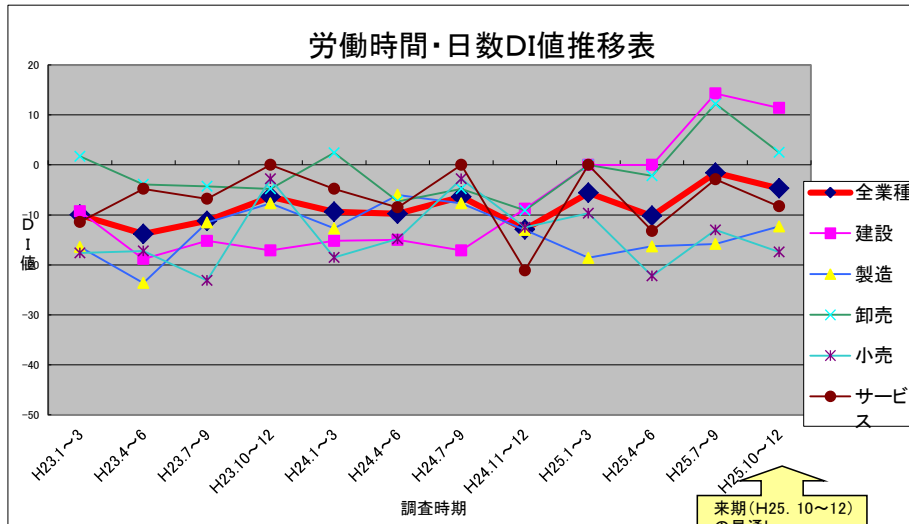
来期(H25. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は4.7となる見込み。業種別に見ると、建設業▲6.9、製造業14.0、卸売業8.1、小売業4.5、サービス業▲3.0となる見込み。



今期(H25. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は21社、「減少した」と回答した企業は40社、「横ばいである」と答えた企業は128社であった。DI値は▲10.1となった。

業種別に見ると、建設業11.8、製造業▲27.6、卸売業0.0、小売業▲13.0、サービス業▲12.1となった。

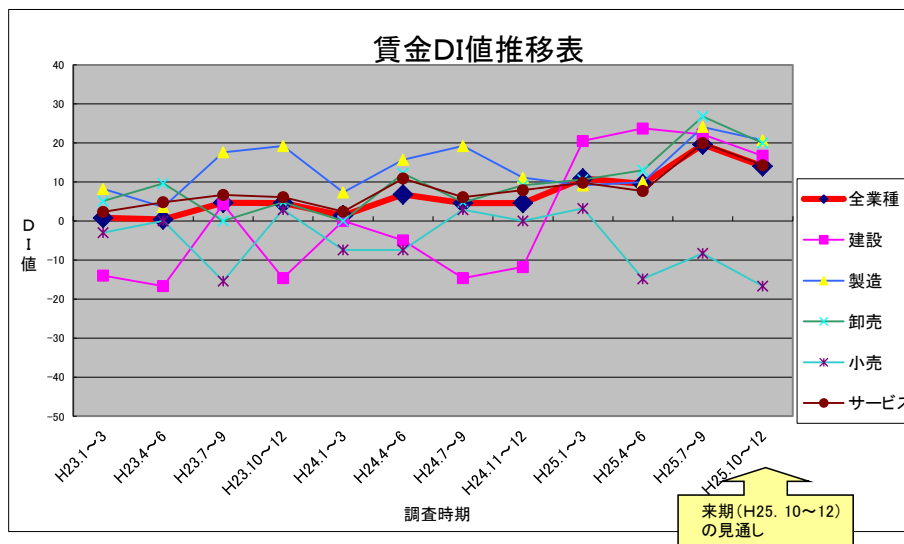
来期(H25. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲10.2となる見込み。業種別に見ると、建設業12.1、製造業▲17.5、卸売業▲15.0、小売業▲21.7、サービス業▲6.1となる見込み。



今期(H25. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は18社、「減少した」と回答した企業は21社、「横ばいである」と答えた企業は152社であった。DI値は▲1. 6となった。

業種別に見ると、建設業▲14. 3、製造業▲15. 8、卸売業12. 2、小売業▲13. 0、サービス業▲2. 9となった。

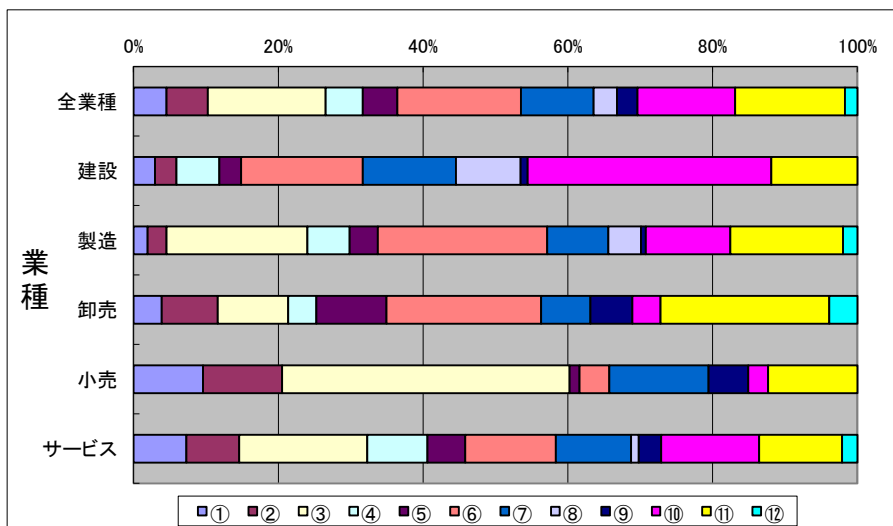
来期(H25. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲4. 7となる見込み。業種別に見ると、建設業11. 4、製造業▲12. 3、卸売業2. 5、小売業▲17. 4、サービス業▲8. 3となる見込み。



今期(H25. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は55社、「減少した」と回答した企業は17社、「横ばいである」と答えた企業は122社であった。DI値は19. 6となった。

業種別のDI値では、建設業22. 2、製造業24. 1、卸売業26. 8、小売業▲8. 3、サービス業20. 0となった。

来期(H25. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は14. 0となる見込み。業種別に見ると、建設業16. 7、製造業20. 7、卸売業20. 0、小売業▲16. 7、サービス業14. 3となる見込み。



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他
 今期(H25. 7~9)の経営上の悩みとしては、「仕入単価の上昇(17.1%)」「消費者ニーズへの対応(16.3%)」を指摘する声が多く寄せられている。
 「仕入単価の上昇」の各業種の内訳は建設業(16.9%)、製造業(22.7%)、卸売業(21.4%)、小売業(4.1%)サービス業(12.5%)。

<事業所から寄せられた主なコメント>

【建設】

従業員の高齢化が進んでいる
 請負単価が低下傾向にあり経営に悪影響を及ぼしている
 若手職人を探しているが見つからない

【製造】

加工単価の低下
 需要の停滞により売上が減少している
 新規採用を行ってもすぐに退職してしまう
 電力エネルギーコストが上昇し経営を圧迫している
 顧客の減少
 次代を担う技術後継者が不足している

【卸売】

同業他社との競争激化
 地方で宝飾品の需要は停滞している
 消費増税後の需要停滞を懸念している
 売上の減少
 法人税の高さが利益を圧迫している
 今後の行き先が不透明な為、利益が出ても設備投資を控えている
 消費増税に備え、年内にパソコン等を入れ替えを予定している

【小売】

街中の通行減少に伴い売上が停滞している
 医薬品のネット販売解禁に伴う対応に不安がある
 大型店に顧客が流出し経営を圧迫している
 利益の出る商品は売れない
 物日の売上が減少している
 消費増税に伴う駆け込み需要はあるが増税後の反動が心配
 プレミアム商品券での売上が多かった
 売上の減少をカバーする為、経費削減を実施している
 消費増税後の需要減少及び客単価の低下を懸念している
 仕入単価の上昇により利益が減少している。

【サービス】

経済環境への変化対応が難しい
 景気が回復していると言われるが実感できない
 作業に精通した従業員の確保が難しい
 今期は増収増益により特別ボーナスを支給した
 和服を着る人が減り、しみ抜き需要が減少し厳しい状況
 消費増税に伴い料金改定を検討しているが現状では困難である